

## 末梢挿入型中心静脈カテーテル挿入**100症例**超えました

中心静脈カテーテルは食事を摂取できない時の点滴治療、抗がん剤治療や特殊な薬剤投与など、現代医療のさまざまな場面で使用されています。中心静脈カテーテルは内頸静脈や鎖骨下静脈、大腿静脈から挿入することが多いのですが、気胸や動脈誤穿刺といった手技に関する合併症や、長期留置による感染のリスクも伴います。末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC：Peripherally inserted central venous catheter）は、上腕の静脈から挿入することにより安全で感染率が低いとされており、患者さんが手技中に感じる恐怖心を和らげ、体への負担を軽減することができます。手技時間は15分から30分と、短い時間で行うことができるのも特徴です。日本では2010年に保険適応となっており、手技を安全に行えることから、2015年厚労省通知によりチーム医療推進のための看護師特定行為の中にPICC挿入も含まれ、所定の研修を修了した看護師が実施出来るようになりました。

当院でも2019年4月に診療看護師が2名誕生し、看護師が安全にPICC挿入を行う体制作りが必要となり、第二循環器科部長 東健作先生のご指導のもとPICCチームの立ち上げを行っています。2019年度はチームとしての認知度が低く、症例数は7診療科の53例にとどまりました。2020年度は中心静脈カテーテルを必要とする様々な科(13診療科)から依頼を頂き、9月14日の時点で100症例に達しています。看護師がPICC挿入を行うことで医師が医師の仕事に専念することができ、患者さんが迅速に治療を受ける体制を整えることができるようになりました。末梢点滴の差し替えが不要となり、血管静脈炎の発生低下やコスト削減にも繋がっています。従来のように、首や足の付け根からの中心静脈カテーテル挿入により長期安静を強いられたり、感染のためにカテーテルを入れ替えたりすることも少なくなってきました。さらに、PICCからの採血も可能なため、血管が細く何度も針を刺される患者さんのストレスや、何度も穿刺する看護師のストレスをPICCにより大きく軽減できていることは、私たちとしても光栄なことだと感じています。

また、2020年2月からは外科医師と協力して皮下植え込み型PICCポート留置も行っています。PICCポートは植え込み型なので日常生活の邪魔にならず、外来での抗がん剤治療にも有用です。今年度、PICCポート留置はすでに63例(9月30日時点)実施しており、患者さんのさらなるストレス軽減に繋がっているのではないかと思います。

今後も患者さんが安全、安楽な治療を選択できるように、PICCチームとして全力でお手伝いしていきたいと思っております。

(文責：診療看護師 伊藤 由加)



# 職場紹介

## 【東2階病棟】

東2階病棟(ICU)は、ベッド数16床で、心臓血管外科、外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科等の大手術後や緊急入院など重症患者の受け入れを行っています。医師や臨床工学技士、理学療法士、栄養士などとともにチーム医療を行いながら一日も早く回復し、一般病棟、そして地域へ戻ることができるように、24時間体制で集中的な治療・看護を提供しています。

また、看護師は、ICUの他に心臓カテーテル検査室(3室)、透析室(4床)、救急外来等も対応しています。今年度8月より土日のドクターヘリからの搬送受け入れが始動し、ランディングポイントまでのドクターカーにICU看護師が同乗しています。救命および重篤な状態にある患者さんの回復過程にかかわれるやりがいのある職場です。

危機的な状況にある患者に対し、状態を的確に把握し、多職種と連携を図りながら科学的根拠に基づいた看護を実践しています。当病棟では、特定看護師、集中ケア認定看護師、BLS、ACLS、DMAT、呼吸療法認定士など様々な資格を有した看護師が配置されており、質の高い看護と安全管理に努めています。

また、切迫した集中ケアを必要とする患者・ご家族に対し、不安の軽減に努め、環境を調整すると同時に、治療選択を迫られた患者ご家族の意思決定支援を大切に今後も取り組んでまいります。

(文責：看護師長 池田 智子)



集中ケア認定  
看護師  
特定看護師



救急外来  
ドクターカー乗車

透析室

カテーテル  
治療室



## 【臨床検査科】

鹿児島医療センター臨床検査科です。私たち臨床検査科は病理診断科の野元部長や城ヶ崎医長、また古野臨床検査技師長を始めとする常勤臨床検査技師、非常勤臨床検査技師、検査助手と総勢 34 名で日々の仕事に従事しております。さて今年も 4 月に例年に違わず 5 人の転勤者や新人（新人副技師長、新人主任、新卒と“新し物づくめ”）を迎え入れスタートしました。色々な部分で皆様にご迷惑をお掛けしていると思いますが、日々臨床検査科内外で微力になれるよう頑張っていますので、温かい目で見守っていただけると幸いです。他の医療従事者と比べ、臨床検査技師といえば少し地味なイメージをお持ちだとは思いますが、意外(?)と様々な場面で活躍(?)させてもらっていますので、簡単ではありますがご紹介させていただきたいと思っております。

### 1. 生化学・免疫・血液検査

医師や看護師が採血をし、検査科へ搬送、遠心機で数分～十数分遠心し検査スタート。

分析装置にセットし、数十分後に検査結果を報告。簡単に聞こえますが、当院では基本的に 3.5 名の常勤検査技師で入院・外来全ての検体検査に対応。

### 2. 病理検査

患者から採取した組織(臓器)などを、固定・染色・包埋・薄切・鏡検などの技術を駆使し悪性細胞などを検出する検査。野元先生や城ヶ崎先生などの病理診断部の先生方、常勤検査技師 2 名、非常勤職員 3 名で対応。

### 3. 細菌検査

患者から採取した喀痰・糞便など様々な検体を用い、ウィルスや細菌を検出する検査。

今年度より開始した COVID-19 抗原検査なども含め 2.5 名の常勤検査技師で対応。

### 4. 輸血検査

血液型検査や不規則抗体検査を実施し、患者が安全・迅速に輸血できるように検査している。RBC や FFP、PC などの血液製剤の発注・管理などを 2 名の常勤検査技師で対応。

### 5. 生理検査(一般検査も含む)

心電図、肺機能、ABI、脳波、心臓超音波、腹部超音波、心臓カテーテル、聴力検査などなど様々な生体検査に対応。常勤検査技師 12 名、非常勤検査技師 4 名、検査助手 1 名と数多くのスタッフで対応。

検査技師の数が多く感じると思いますが、仕事量からすれば決して多すぎず、むしろ同時にいくつもの検査に従事している検査技師・検査助手のおかげで今の検査体制が成り立っています。

今年度は当初より COVID-19 という空前絶後の厄災に見舞われ、当院も例外ではなく専用病棟の設置など様々な対応策を実施。臨床検査科も抗原検査や『RT-PCR』という新しい武器を装備し、共に COVID-19 と戦う準備を整えつつあります。まだまだ長丁場になるとは思いますが、鹿児島医療センター一丸となって頑張りましょう。最後に今後とも臨床検査科へのお力添えをよろしくお願いいたします。

(文責：副臨床検査技師長 渡辺 秀明)



# 診療科紹介 — 泌尿器科 —

当科は令和2年4月より常勤2名で診療をおこなっております。

主に泌尿器癌の治療や排尿障害の診療が中心で、また当院腎臓内科の先生と協同で血液透析も担当しております。

外来は月曜日、水曜日、木曜日、金曜日で初診の方も含めて午前中に受付を済ませていただき診療しております。同曜日の午後は検査や小手術を行っております。

火曜日は終日手術を行っております。必要に応じて他院の泌尿器科医師に手術応援を依頼しております。

排尿障害は男性の方では前立腺肥大症による排尿障害が多く、内服薬による治療が可能です。内服治療で改善困難であれば、経尿道的前立腺切除術を行っております。女性の方は尿失禁の症状の方が多く、こちらも内服薬での治療を行っております。また最近では骨盤臓器脱（膀胱脱、子宮脱、直腸脱）に伴う排尿障害には、骨盤臓器脱の矯正手術である腹腔鏡下脛仙骨固定術を行っております。

泌尿器科が担当する癌は前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌をはじめとした尿路上皮癌です。前立腺癌はPSAという腫瘍マーカーが高値であれば前立腺針生検を行い診断いたします。腎細胞癌は造影CTなどの画像評価で診断いたします。手術による切除が必要であれば腹腔鏡下に手術を行っております。

当院は循環器科、脳神経科のバックアップがあるため、心疾患や脳疾患の既往がある方の手術を円滑に行えております。

昨年度まで常勤3名でしたが今年度から減員になり皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、日々精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

(文責：泌尿器科医長 宮元 一隆)



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター**（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・西田・西辻・篠崎・迫田・椎原・出口・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・吉村

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

